

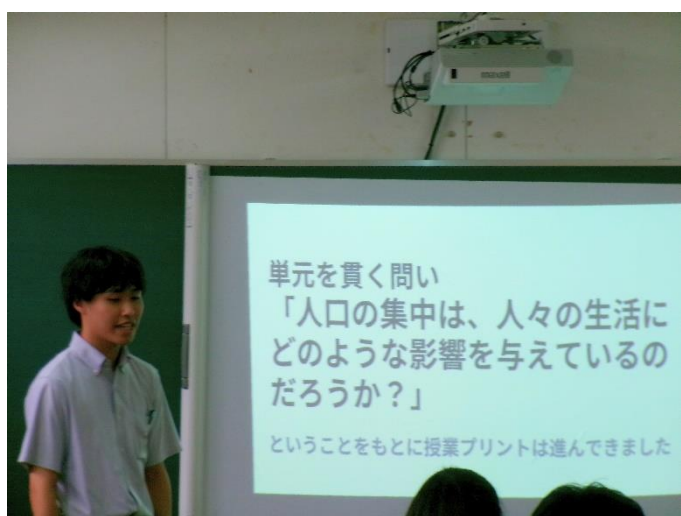
学校探訪レポート

～先生はみんなのパーソナルトレーナー！一人一人に寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

生徒一人一人の思考の過程に丁寧に寄り添い、暗記にとどまらない「生きた知識」へと昇華させる「パーソナルトレーナー」としての先生方の姿を追う本企画。今回は、2年1組で行われた津田涼平先生の社会科の授業（単元名：「日本の諸地域 関東地方」）を参観しました。「人口の集中は、人々の生活にどのような影響をあたえているのだろうか？」という単元を貫く問いを軸に、これまで蓄積してきた知識を総動員して探究課題に挑む、生徒たちの知的活気に満ちた姿をお届けします！

◆ 単元を貫く問いと「編集者になりきる」パフォーマンス課題が生む統合的思考



津田先生の授業における最大の魅力は、細切れの知識を単に記憶させるのではなく、複数の地域的事象を関連付けて捉えさせる緻密な単元デザインにあります。本時ではまとめの学習として、「出版社の編集者として、詳しく知らない人に『関東地方』を説明する用語集の原稿を作る」というパフォーマンス課題が提示されました。

生徒たちは「なぜ人が集まるのか」「人口の集中が交通や産業、都市の発達、地域の課題にどう影響しているのか」について、これまでの授業プリントや資料を参考にして知識を総動員。単なる

用語の羅列ではなく、背景を踏まえて自分の言葉で再構築していく姿からは、地理的な思考力が着実に育まれていることが強く伝わってきました。

◆ 対話と「品評会」がもたらす思考のアップデートと、個に応じた伴走

展開の場面では、個人でのメモ作成から班での原稿案作成、そして全体での「品評会」へと段階的に学びを深める工夫がなされていました。代表の原稿をもとに「良い点」や「より分かりやすくするための改善点」を建設的に検討し合う品評会のプロセスを通して、生徒たちは他者の視点を取り入れ、自らの原稿をより客観的で洗練されたものへとアップデートさせていました。

津田先生は、何を書けばよいか迷う生徒には「これまでのプリントのどの情報が使えそうかな？」と優しく問いかけて思考の糸口を提示しつつ、生徒同士が互いの考えを尊重しながら高め合えるよう温かく見守られていました。個のつまずきに目を配りながら、集団としての学び合いへとつなげるそのアプローチは、まさに一人一人の成長を支える専属トレーナーそのものです。

◆ おわりに

学んできた知識を総合し、社会の仕組みや地域の姿を自分の言葉で解き明かす楽しさを生徒に手渡してくださった津田先生。生徒の「もっと深めたい」という意欲を引き出し、確かな思考力と表現力を育む熱心な授業づくりに、心から感謝いたします。いつも本当にありがとうございます！